

第三者メッセージ

今年は環境経営報告書として初めての試みに挑戦され、盛りだくさんの情報をどのように編集するかに苦慮されたことが紙面から感じられました。読みやすさへ向けての配慮など、去年からの進化がみられました。内容について達成項目の表記よりも、未達成項目についての分析を行い、広く世界から解決案を募るメッセージがあると環境経営に貢献できるのではないのでしょうか。そのことによって衆知を結集するコミュニケーションが推進されます。

新しく多くのページを割いた社会貢献に関する項目は、活動報告にとどまらない「社会とのどのような信頼関係を実現したのか」がステークホルダーにも伝わる報告書を目指してほしいと思いました。企業と人、企業と環境、企業と社会における「信頼関係構築の物語」こそ読者が望んでいるものです。ウェブや他のコミュニケーション・ツールの連携を図り、物語が共有されていくといいですね。

今年は報告書を読む前に、工場見学をお願いしました。甲府カシオを見学した際、コミュニケーション担当者の「積極的に地域とつながりを深めていく姿勢」に社会に開かれた企業へ向けての意志を感じ、環境技術管理担当者の「環境を大切にしないで、企業が成り立つわけがない」という言葉の中に、技術者として責任を果たそうという強い意志を感じました。

このような働く現場の方々の顔や声が、もっと出てくることを望みます。環境経営報告書は働く人の体温が感じられてこそ、報告書の機能を全うするのではないのでしょうか。

今後の課題は、世の中の知恵を集める為のステークホルダー・ミーティングの実施をととして、環境経営報告書担当者のミッションが「報告書の作成」から、「報告書を活用して企業と社会とコミュニケーションを成立させること」に深化させていくことです。その知恵の循環によって、企業理念である「創造貢献」の本質が社会に伝わっていくと思います。CSR経営へのチャレンジする経営陣のステートメントに「技術によって人々の感性を豊かにする新しいカシオの企業文化構築」の予兆と可能性を感じました。



環境を考えるプランナーの会
代表

飯島 ツトム

編集後記

今回の報告書は、タイトルを「環境経営報告書2004」といたしました。これは近年マスメディア等で企業の社会的責任（CSR）として指摘されているように、従来からの環境だけでなく、社会性についての記述を充実させたことに基づきます。また、社会性といっても範囲は広く、対象読者をどのステークホルダーに設定するかで内容は大きく変わります。

私どもは主たる対象読者を一般消費者の方々、カシオグループの社員に設定し、読みやすさ、わかりやすさを考慮して制作し、また、グラフを含めたデザインは色覚障害の方でも見やすい色使いを心掛けるなど工夫を施しておりますが、どのような感想を持たれましたでしょうか。

弊社のCSRの取り組みは、昨年「カシオ創造憲章」を発表し、また本年4月1日付けでCSR推進室が発足し、今年はCSR元年となります。

今回、特集記事として環境経営学会の三田会長と榎尾社長との環境経営をテーマとした対談 [P5～8参照](#) を掲載いたしました。企業トップが語る内容はまさにトップコミットメントであり、カシオとしての環境経営方針が明確に語られております。ぜひ一読をお願いいたします。

また今年が初めての開催となる「環境経営報告書を読む会」[P26参照](#) では、ステークホルダーとしてカシオの従業員を対象に



「環境経営報告書2004」ドラフトをテキストとして行なった私ども制作者との相互コミュニケーションはとても貴重な経験となりました。この中で出されたご意見については最終版に反映できるものは全て対応し、残念ながら今年度版での対応が困難なものは、次回に向けての課題として今後の活動に活かして行きたいと考えています。

同時に、皆様からの読後の忌憚のないご意見、ご感想をいただければ幸いです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、情報提供や原稿作成にご協力いただいたすべての方々に、心より御礼申し上げます。

環境経営報告書 制作委員会一同